



三重県議会議員
小林 正人



春風の候 皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。今号は昨年末に県令和4年度各部署の当初予算要求状況に対する総括的質疑をさせていただいた内容と、令和4年度コロナ関連事業・施策別重点事業を一部抜粋して掲載させていただきました。時節がらまだまだ寒い日が続きますので、お身体には充分ご留意ください。



令和4年度

当初予算要求に対する総括的質疑 (関連部局長に対して) 会派を代表して行いました

質疑

1

就職実現コーディネーターについて

令和2年度は言うまでもなく、コロナの影響もあって高校生の就職を取り巻く環境は大変厳しく、求職者数の減はもとより一旦内定しても取り消されるという事も多々みうけられました。県教育委員会においてはこのような事態を重くみて、求人開拓や進路相談等の就職支援、新規高校卒業生の職場定着支援に向けた取り組み体制を充実させるために就職実現コーディネーターを3名増員していただきました。しかしながら、最終的にはその内定率は限りなく100%に近づきましたがミスマッチや一定業種へのかたより、離職等多くの問題も継続してのこっている状況であります。ここで令和4年3月県立学校卒業予定者の就職内定状況(令和3年度10月末時点)のもので紹介をさせていただきたいと思います。まず全日制・定時制においては卒業予定者11,387人で就職希望者は3,533人、うち就職内定者は3,095人、未内定者は438人、内定率は87.6%となっており、コロナの影響が多であった昨年とは比較できませんが、令和元年度と比較しますと0.2ポイント程上回っております。また県立特別支援学校高等部においては、卒業予定者が263人、就職希望者は65人、うち内定者は23人、内定率35.4%でありこちらにおいても令和元年度からは0.1ポイント程上回っております。このような状況ではありますが、今後、先にも提起した一定業種へのかたよりミスマッチ、離職対策、コロナでの企業業績悪化がまだまだ懸念されますし、就職支援ということも大いに必要であると考えます。そこでお聞きいたしますが、



Question 1-1

令和4年度において、この就職実現コーディネーターの配置等に関する事業、未来へつなぐキャリア教育推進事業ですが、令和3年度より約500万減額になっておりますが、これは新規の未来を創造するリーダー育成事業で補われているという考えでいいのでしょうか? その場合、現在実現コーディネーターは17人とのことですが令和4年度の人員はどうなるのか? また更なる職務内容を充実させることは必須であると思っておりますが、お考えをお伺いいたします。

Question 1-2

この就職実現コーディネーターは1校を拠点に県内57校をまわるとのことです、うち普通科・総合学科を担当される方が12名、外国人・障がい者が多く在籍している学校を担当される方が5名ときいております。このような巡回性できちんと地域の魅力ある企業や職種の情報を生徒に伝えることができるのでしょうか? またそのためのコーディネーター間での情報共有はどのようにされているのか? 更には就職内定率が一番弱いと思われる普通科には巡回ではなく固定で職務にあたる等、令和4年度はどのような取り組み・対策をとられるのか? 再度お聞きしたいと思います。

Question 1-3

この就職実現コーディネーターですが、これまでの業務として就職セミナー等の開催、ハローワーク等からの求人情報の提供等、どちらかという受け身の姿勢に感じますが、例えば県内の魅力ある企業は多々あると思っておりますが、個々に訪問して現場を自ら確認しその魅力を生徒に伝えることができれば、業種のかたより(建設関連産業は仕事の波が荒いが、製造業は安定しているため、より推進する考え等)も減少するでしょうし、県内企業への就職率もあがる、またミスマッチ解消いわゆる離職率も低下すると考えますがご所見をお伺いします。

▶▶▶ 答弁者 木原教育長

質疑
2

令和4年度の伊勢湾再生への取り組みについて



伊勢湾の水質汚濁の原因は平均水深が浅く、中央海域が盆状になっているほか、湾口部には大小の島々が存在し、複雑な沿岸地形となっているため、外海との水交換が悪く、汚濁の原因となる物質が停滞しやすい閉鎖水域であり、そのため河川から流入する淡水の影響も大きくなっており、伊勢湾の底質には粒度の小さい粘土、シルトが広い範囲に分布しており、河川からの流入土砂が堆積しやすいことが原因といわれております。また、伊勢湾に流入する汚濁負荷量をみますと、科学的酸素要求量COD、全窒素、全リンともやや減少傾向にあるものの生活系並びに非特定汚染源の汚濁負荷量は横ばい状態にあります。これらのことから県でも下水道整備や合併浄化槽等の整備を推進し陸域からの汚濁負荷量の削減に取り組んでいただき、流入汚濁負荷量の過半を占める生活系排水の削減対策にも尽力していただいております。このことは大変重要な対策ではありますが、しかしながら明らかに陸域からの汚濁負荷量は減少しているにもかかわらず、伊勢湾水域の窒素やリンの濃度はこれに対応した低下をしめていないという現状にあります。伊勢湾を再生するためには、先に話しました、陸域からの汚濁負荷量の削減に加えて、閉鎖的海域の富栄養化の進行、貧酸素水塊の形成の阻害、栄養塩類濃度の低減をはかることが必要といわれておりますが、県の令和4年度の具体的な取り組みをお聞きいたします。



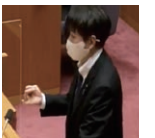
▶▶▶ 答弁者 岡村環境生活部長

質疑
3

海岸漂着ゴミ対策について



今回は特に県土整備部の令和4年度の取り組みについてお聞きしたいと思います。本県の海岸線は木曾岬町から伊勢市までは各市町10キロ以内、鳥羽市から南は一部をのぞいて50キロ以上とその総延長は全国第8位と非常に長く、台風等の災害時にその海岸に流れ着く漂着ゴミは相当な量であります。このようなゴミを放置しておきますと、景観悪化は勿論、漁業活動にもおおきなダメージを与え、生活様式にも大変な悪影響を及ぼします。こういった問題に対応するために県は三重県海岸漂着物対策推進計画を策定していただき、環境保全に関わるNPOや漁業協同組合、民間団体、企業、市町と連携しそれぞれの役割分担をもって対応していただいております。しかしながら、現状は毎年、海岸漂着ゴミ撤去に関する地域からの要望も多く、多大な費用が掛かることや処理困難なゴミがあることから、その対応も遅く、場合によってはそのまま放置、散乱ということもみうけられます。そこで令和4年度予算編成において提案ですが、県全体で1年間にかかる海岸漂着ゴミ撤去にかかる費用は、環境省の海岸漂着物等地域対策推進事業等の補助金を含め農水、県土整備の予算をあわせると毎年約1億6千万ほどかかることと、特段台風や災害が多い年度は別として同程度の予算が執行されていると聞きます。そうであれば、漂着ゴミが出てから予算を要求するのではなく、当初から取り分け各建設事務所において、海岸漂着ゴミ撤去のための個別枠を設定しておけば、迅速に対応できるのではと考えます。現在は海岸等の維持管理費を積算するさいに、海岸美化清掃にかかる費用やその他の経費と十把一絡げにされていると思っておりますが、お考えをお聞きいたします。



▶▶▶ 答弁者 水野県土整備部長



県土整備部の令和4年度当初予算編成に向けての基本的な考え方の中に、老朽化が進行する道路、堤防、海岸などの整備について定期点検・補修を予防保全の考え方を取り入れながら着実に進めますとあります。中でも堤防整備については、数年



前に県内全体で200数十か所でしたか、点検、補修をしていただきましたが、その後抜本的な整備はなく、現在も空洞化やクラックが入った個所が何件かみつけられます。令和4年度当初予算要求状況では、海岸改修事業として前年度より、約18億増の40億円あまりが計上されておりますが、具

体的に海岸堤防整備においては何か所の点検と整備補修を見込んでおられるのか?更には堤防整備は長寿化計画において優先順位をつけて取り組まれてきたと思いますが、その順位のつけ方判断はどのような考え方でおこなわれているのか、お聞きいたします。▶▶ 答弁者 水野県土整備部長



グリーンインフラとは自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方で、今まさに都市形成において非常に注目されております。こちら県土整備部の基本的な考え方の中に、4つの取り組みが書かれ

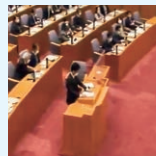


ておりまして、中でも公共工事への県産木材の活用や道路や公園で雨水浸透ますの整備など生態系を活用した防災減災対策に取り組む、また道路植栽の樹形管理や地域との共同による花植え、美化活動など空間のグリーン化についてめりはりをつけながら進めます。とあります。このことは非常に注目する部分でありまして、とりわけ予算化においては道路維持

管理費等と十把一絡げでなく、単独予算枠を設けるべきだと考えますがいかがなものか?また、一気に県内全体で取り組むとなると特に後段の部分は一過性に終わってしまう可能性もあるので、一部おこなっている地域もあるとのことですが、モデル地域等選定し優先順位をもって進めていければと思いますが、ご所見をお伺いいたします。▶▶ 答弁者 水野県土整備部長

質疑 6 ▶ 戦略企画部の高等教育機関関連推進事業、学びの選択肢について

質疑 7 ▶ 外国人介護従事者の確保について



予算決算
常任委員会
議会中継



三重県議会中継

検索

掲載できなかった質疑、執行部答弁内容につきましては三重県議会12月14日の中継録画からアクセスできますので宜しくお願いいたします。



こちらからも
アクセス可能

令和4年度
(一部抜粋)

当初予算

一般会計対前年度比率4.0%増の8,194億円

※一体的に編成する令和3年度1月・2月補正予算と合わせて、8,593億円



新型コロナウイルス感染症対策 554億円

■ 防疫対策事業 医療保健部 **44,657,300千円**
ワクチン接種の副反応に対する専門的な診療体制の確保や医療機関等の接種を支援、医療従事者への支援等

防災・減災・県土の強靱化

- 河川事業 県土整備部 **8,897,317千円**
- 河川堆積土砂対策事業 県土整備部 **2,735,112千円**
- 海岸改修事業 県土整備部 **2,352,363千円**

医療・介護・健康

- [一部新] 看護職員確保対策事業 医療保健部 **538,789千円**
国の経済対策に基づき、地域でコロナ医療など一定の役割を担い、令和4年2月から看護職員等の賃上げを行っている病院に対する補助
- [一部新] 福祉・介護人材確保対策事業 医療保健部 **122,354千円**
コロナ禍で離職を余儀なくされた非正規雇用等の就職氷河期世代を対象に、介護職員初任者研修を実施
離島、中山間地域等における人材確保を支援
- [一部新] 介護福祉士等修学資金貸付事業 医療保健部 **52,299千円**
他業種から介護職への転職者に転職準備金を貸付
介護福祉士の資格取得をめざす福祉系高校の学生に対して修学資金を貸付

暮らしの安全

- 道路維持管理事業 県土整備部 **6,682,688千円**
令和4年度以降は、剥離が進行する道路の路面標示について、警察と連携しながら改善し、一定の水準を確保、定常化を推進
- 交通安全施設整備事業 警察本部 **1,861,814千円**
摩耗した横断歩道等道路標示の塗り替え、老朽化した信号機の更新(LED信号灯器600灯(対前年度比約10倍)、信号柱110本(対前年度比約1.5倍)等)、歩行者支援システムの整備を実施
- [一部新] 空き家対策支援事業 県土整備部 **5,023千円**

移動手段の確保

- [一部新] 次世代モビリティ等を活用した円滑な移動手段確保事業 地域連携部 **22,415千円**
高齢者をはじめとする県民の皆さんの移動手段の確保に向け、地域の実情に応じた次世代モビリティ等の活用によるモデル事業や、福祉分野等との連携や地域での助け合い等によるモデル事業を市町等と実施

ものづくり産業・中小企業振興

- [新] 生産性向上・業態転換支援補助金 雇用経済部 **319,177千円**
中小企業・小規模企業がアフターコロナを見据えて、生産性向上や業態転換を図るための取組を支援

農林水産業の振興

- [新] 伊勢茶を愛する県民運動展開事業 農林水産部 **8,000千円**

多様で柔軟な働き方の推進

- [新] テレワークによる障がい者雇用促進事業 雇用経済部 **40,000千円**
県内企業等が障がい者雇用の場として共同利用するテレワーク拠点の開設を支援

若者の就労支援・県内定着促進

- [新] 若者の地域還流・定着促進支援事業 雇用経済部 **24,210千円**

虐待防止・子どもの貧困対策

- [一部新] 子どもの貧困対策推進事業 子ども・福祉部 **17,110千円**
- [新] ヤングケアラー支援事業 子ども・福祉部 **16,813千円**
ヤングケアラーの早期発見や適切な支援につなげるための実態調査や関係職員に対する研修を実施



リモート会議にて
国土強靱化他、事業予算要望



水産業支援について一見知事に要望



コロナ補正予算等について
執行部から議事提出



総合医療・文化芸術振興について調査